



減量 Reduce

食品ロスを減らす

家庭ごみの減量を考える上でできることがあります。それは食品ロスを減らすということです。

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことです。日本では年間約472万トン（令和4年度）もの食品が廃棄されています。この内、一般家庭から発生したと推計されるのは236万トンです。これは1人当たり1年間で約19キログラムの食品を捨てていることになります。

■食品の在庫を確認し、使い切れる分だけ購入

買い物の際は事前にメモをしたり、スマートフォンのメモ機能を活用！

■食材ごとに適した保管と、賞味期限（消費期限）をこまめに確認 購入日や賞味期限を記載してラベルシールを！

■料理は食べきれる量を作り、残ったら冷蔵・冷凍保存 タッパーやジッパーバッグで小分けが便利！

きずなBOX

市は、NPO法人フードバンク茨城と連携し、食品ロスの削減と生活困窮世帯への支援を目的として「きずなボックス」を設置しています。

■寄付いただきたい食品（賞味期限が2か月以上、常温保存可、未開封） 玄米、乾物（パスタ・乾麺・のり・ふりかけ・お茶漬けなど）、 調味料（食用油・しょう油・味噌・砂糖など）、缶詰、瓶詰め、 インスタント食品、レトルト食品、飲料など

■設置場所

・市役所本庁舎2階 生活環境課 ・市立公民館

捨てやすい食品



1位 主食
(ごはん、パン、
麺類)

2位 野菜

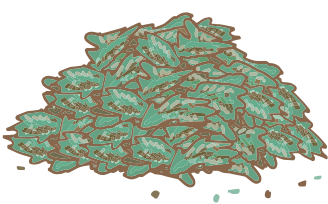
3位 おかず



きずなBOX



電動式生ごみ
減量化器具



草や木は乾燥させて

この時期、庭木や芝生など草木の成長が旺盛です。剪定したり刈ったばかりの草木は水分を多く含み、重くかさばります。天日に干してからごみに出すことで減量化でき、ごみ出しの運搬も楽になります。剪定した枝をごみ出しする際は、太さ10センチメートル以下、長さ50センチメートル以下にして、片手で持てる程度に束ねてください。



分別 Recycle

分別の徹底が資源の再利用に

家庭ごみの約85%を占める可燃ごみ。その可燃ごみには、再生利用可能な資源が多く含まれています。可燃ごみと資源物の分別を徹底することで、可燃ごみの分量を減らす（＝費用負担を減らす）ことができます。市では、紙類5品目、缶類5品目、ビン類5品目の15品目の資源物を回収しています。

■紙類は資源物に

特に可燃ごみに出されやすいプリント、包装紙、紙袋、お菓子の箱などの雑がみは資源物に分別を！

■ビンや缶は水ですすいでから出してください。

ビンは一升ビン、ビールビン、茶色ビン、透明ビンなどに分別を！

■トレーは2種類に分別を

トレーは白色（発泡）のものとその他のものに分別を！



資源物回収売却還元金

資源物回収売却還元金は、自治会ごとに資源物の回収量を把握し、その量に応じて資源物を売却して得た収益の一部を自治会に還元する制度です。資源物を「自治会の」資源物集積所に出すことで、ごみの減量化と自治会の収益増が図れます。

令和5年度還元額：約410万円（1kgあたり4円）



令和6年度
かんきょうカレンダー

結城市資源物リサイクルステーション

結城市資源物リサイクルステーションは、自治会の資源物集積所を利用できないことが多いアパートなどの入居者が資源物を出すことができる施設として整備したものです。自治会の資源物集積所を利用できる方は、できるだけそちらに出すようにしてください。



リサイクル
ステーション

小型充電式電池(モバイルバッテリーなど)

近年、小型充電式電池を使用した製品が増え、それに伴い使われなくなった、または壊れた小型充電式電池やこれを使用した製品の廃棄が多くあります。

小型充電式電池は、強い衝撃や熱などにより発火することが知られています。このことが原因とみられるごみ火災事故が全国で多数発生し、それに伴うごみ処理施設の大規模修繕が必要になるなど、市民生活にも大きな影響を及ぼします。

小型充電式電池を使用した製品は、電池を簡単に取り外せる物は取り外し、有害ごみとして出すようにしてください。

